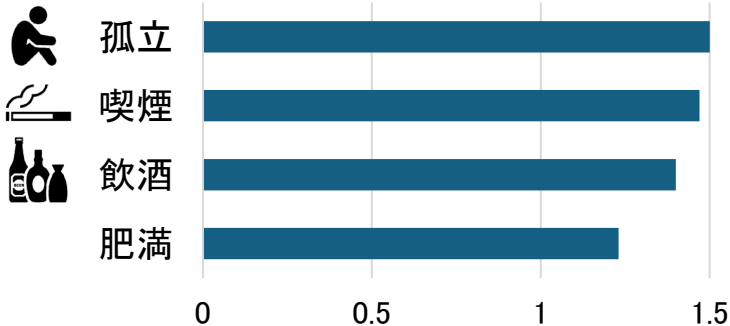


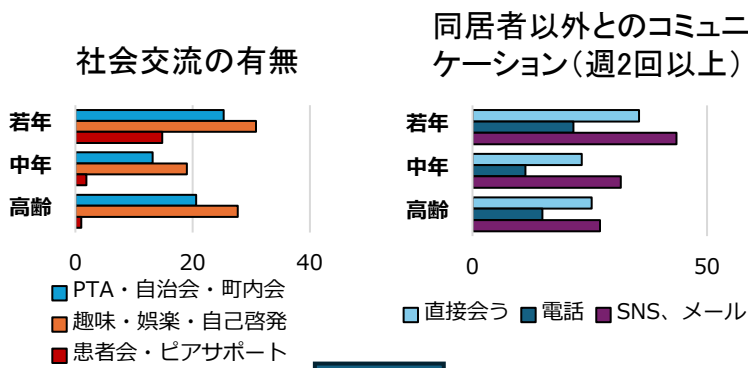
がんサバイバーの世代差に基づく社会活動と孤独感：予測モデルの開発

現状と課題

① がん医療の進展により長期生存者が増加する中、社会的孤立・孤独は喫煙や肥満に匹敵する深刻な健康リスクである。



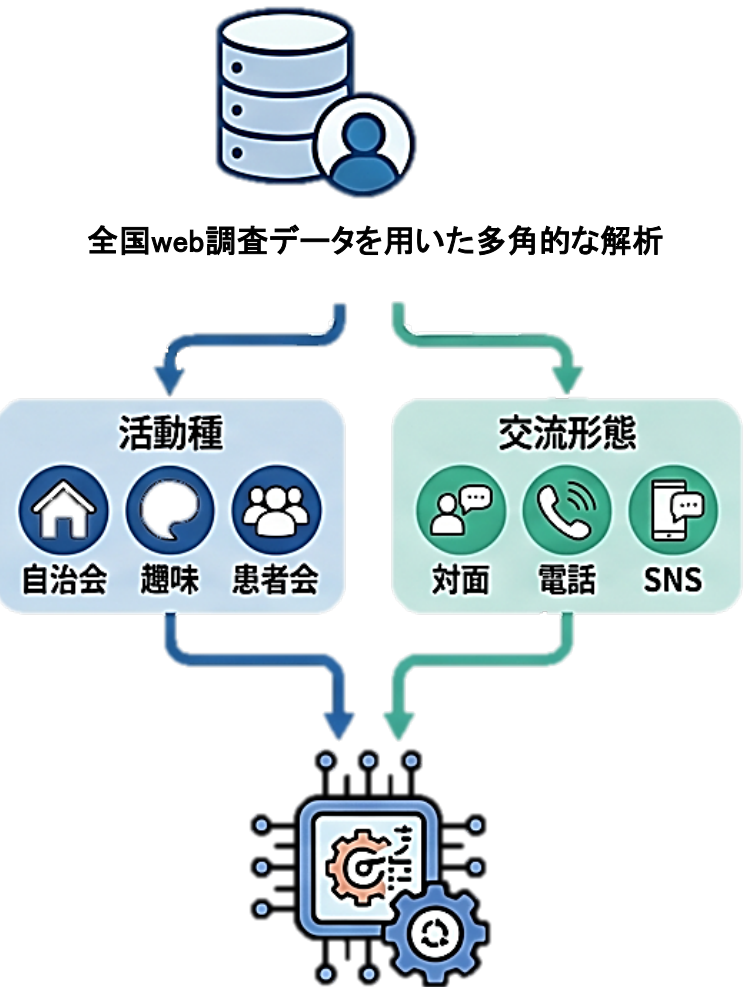
② 社会交流・コミュニケーションの形態や、それによる孤独感への効果が世代間で異なる可能性がある。



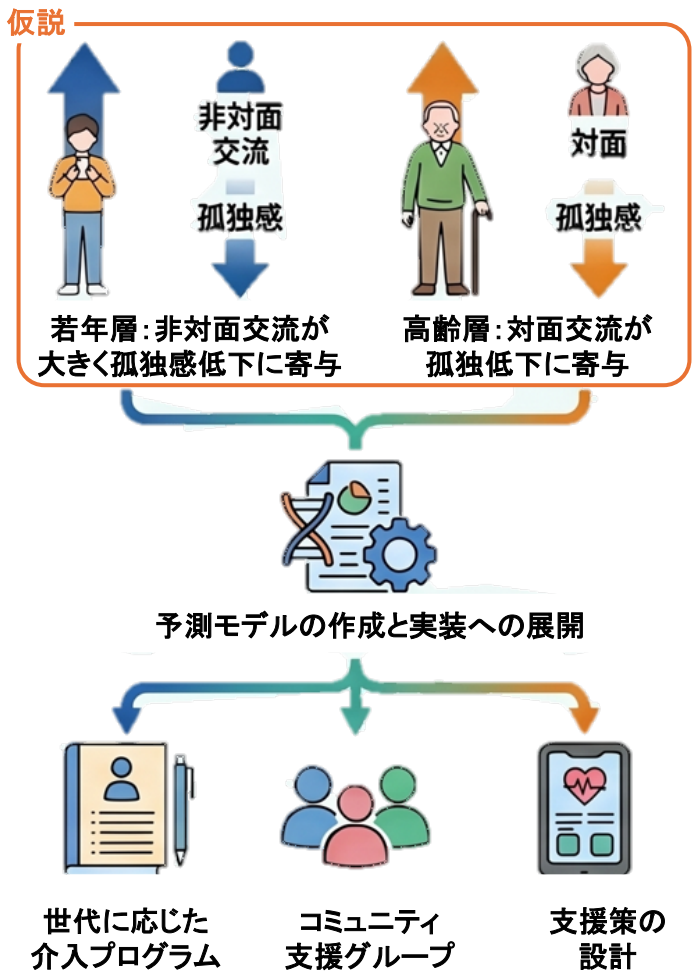
孤独感と、対面型・非対面型のコミュニケーション手段および多様な社会活動への参加状況との関連を明らかにし、世代ごとの特徴を検討する

研究目的と方法：予測モデルによる支援の個別化

1. 世代特性を考慮した「孤独予測因子」の解明



2. 社会的孤立・孤独の予測モデルの作成



解析結果を基に孤独を予測するモデルを構築し、世代に応じた介入プログラムや支援策の設計に使用する